

第4回 武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会 主要議事一覧

番号	発言者	意見	県の回答	他委員の関連意見
1	大石	減災対策の(3)の「逃げる」に関する自助の取り組みで、ひょうご防災ネット加入や、手づくりバザードマップについて記載があるが、広報を目的とした出前講座に防災に関連した講義が行われているのか。なければそのような講座開催を提案したい。	県土木に関しては工事に関する説明が多く、また河川被害、洪水被害への備えなど自助、共助に関する説明も行っている。避難に関しては市の防災部局が自治会からの要望に応じて出前講座行っており、自治体から要望があれば県が説明を行うこともある。 今後出前講座などを通じて、説明したいと考えている。	<足立(代理)> 宝塚市では、自治会から防災学習会について要請があれば、防災部局が自治会に対し、土砂災害、避難、避難場所等について、住民と一緒に考えることを行っている。
	上甫木	雨水貯留タンクの助成を行っている自治体に三田市、神戸市が入っていないなど、取り組みを行っている流域市と足並みが十分にそろっていないと感じており、この件についてのコメントをいただきたい。	雨水貯留タンクについては、神戸市や三田市も過去に実施しており、三田市では、今年から助成がまた始まるということも聞いている。県としては、助成が進んで取り組むよう各市さんにはお願いしている。 減災対策については、各市で地形や減災対策の力点も異なっている。大事なことは、住民に危険箇所を知っていただくことと考えており、各市が取り組んでいる手づくりのハザードマップを紹介することで、より良い手作りハザードマップへの改良につなげていこうと考えている。	<畑> 流域市でも都市化の進展、山林、田園等事情が違う。自治体の特色を活かした取り組みがあってもいいと思う。 雨水貯留タンクの助成については神戸市も平成元年に、浸水被害が起きた地域を中心に助成事業を行ったが、浸水箇所は、一戸建て家屋が少なく平等性が問われた。さらに流出抑制が目的である下水道から助成を行ったが、市民は、雨水利用、地球環境を守るといった意識が強く、環境からの助成をすべきと議論になった。また申し込み件数の減少もあり助成制度を中止した。
		阪神西部地域総合治水推進協議会では上記のような市間の調整を市民も含めて活発化していくこととしていると思うが、このフォローアップ懇話会との関係づけについて補足的なご説明を願う。	阪神西部地域総合治水推進協議会との関係については、フォローアップ懇話会は、整備計画を着実に進めていくためのチェックと広報を目的としている。一方、推進協議会は、推進計画を進めていくためのご意見をいただくということで、エリアは武庫川の流域の他、芦屋市、西宮市と尼崎市の南部が入っており、また下水道対策が入っている。構成員については条例に基づく協議会では各流域圏市8市より連合自治会、自主防災会などのメンバーが参画いただいております。条例の協議会のほうが住民の取り組みが主に行われている。 フォローアップ懇話会の内容も、推進協議会で報告をさせていただくということで、互いの情報交換は行う。	
2	畑	神戸市では、下水道部局が事務局となり、関係部局による流出抑制の連絡調整会議を持っているが、予算と維持管理の話がメインになり、他部局が積極的に動けない実情がある。河川部局なり下水道部局、さらには防災部局等にインセンティブをどう与えるかが難しいと感じている。	県の総合治水条例では、県と市町と県民が相互に連携し、総合的な治水を行うこととしており、基本的には各施設の所有者が自らの費用で実施することとしている。まず県が率先し県有施設、県立学校等で貯留施設を整備し、実例を示すことで効果があることを伝えていく。 総合治水、特にための取り組みは、流域全体での取り組みが大事で、県よりも市や住民で、参加者が多ければ多いほど効果は大きい。武庫川以外でも先進的な事例を全県下に紹介し情報を共有したい。 助成制度については、他市町の意見なども聞き、今後の宿題とさせていただきたい。	
		河川内樹木について、問題のある樹木は伐採するとしているが、樹木は大きくなれば破壊力も大きく、問題点も多くなる。それに対する考え方はいかがか。 資料3-1の4-6に堤防強化の取り組みがまとめられているが、堤内側の樹木はそのまま残すようなイメージに描かれている。普通の堤防について、県として堤防には必ず樹木を残すという方向でいかれるのかどうか。	河川内樹木を一律に伐採するという考えは持っていない。地域の憩いの場や固有景観を形成している樹木もあり、治水上支障がない樹木については、保全していきたいと考えている。 堤防の定規断面を阻害し、堤防を損傷するような樹木については、伐採や剪定を行い、堤防の安全性を確保していきたい。	
	服部	今は細くとも時を経れば樹木は太くなり、破壊力も大きくなる。その時まで置いておかず今の段階での整理も必要である。樹木の残すことに関して、そういう覚悟ができているかどうか確認したい。	樹木の成長に合わせた管理や保全樹木についての明確な仕分けは現在できていないが、地元や市等と相談しながら考え方を充実させていきたい。 先日の台風のときも、土地所有者の判断しにくい場所の木が倒れ通行の妨げになったこともあった。洪水で倒れた場合どんな現象や弊害があるのか、対策を考えていきたい。	<大石> 今の服部委員のお話は、樹木のデータベースにより管理されたほうがいいということで意見として参考にしていただきたい。
		雨水貯留タンクの助成について、25年度までの達成では、累計で1,110基、25年度に関しては173基と、この調子では、かけ声倒れに終わってしまい、真の流域対策にはならないと思う。5年間で目標が達成できなければ、条例も含めて根本的なやり方を変えないといけないのではないかと。 個人的な考えだが、県によるリースや、公共施設に利用者が使えるものを設置していく等しないと普及しない気がする。 田んぼダムについても、所有者の不安をどうやって取り除くのか、具体的に県のほうで	総合治水での雨水貯留の取り組み方法は非常に多い。県では校庭やため池、公園での貯留、また田んぼダムなどまとまった大きな施設で行っており、各家庭での貯留や各市で応援していただくものなど役割分担した方が、総合治水がより進むのではないかと。 田んぼダムについては、千種川や加古川流域など、県内でかなり広まっている。 今年から神戸市北区でも約10haで田んぼダムに取り組んでいる。実施農家によれば生育には大きな影響はないとのこと、気軽に取り組んでいただけるよう、田んぼダムの取り組みも広げていき	<足立(代理)> 各戸貯留についての宝塚市では下水道部局が取り組んでおり、1年間の予算は120万程度、1カ所4万円の助成で30カ所の計画である。しかし、助成数の伸びは少ない状況である。
4	北添			

		考えられているのかどうか。	たい。農業改良普及員の方などが農協等に声をかけており、広がっていくのではないかと考えている。	
	大石	各戸貯留については、個人の取り組みを後押しする取り組みを考えているところである。各戸貯留が進んでいる東京都墨田区では、区役所が非常に熱心に取り組み、NPOをつくり、各戸貯留を進めているという話を聞いたことがあり、まずは個人の意欲を啓発することが大事かと考えている。		
5	北添	環境と結びつけないと人は動かないのかもしれない。雨水貯留タンクは雨が降る前に水を抜かないといけないことを周知する方法を考える必要がある。	雨水貯留タンクは流域対策の手法のひとつとして紹介しているが、使い方もPRする必要がある。これらは、市町で1基当たり2万円～3万円を助成しているが、誰でもすぐにお金をかけずにできる方法として、大雨には風呂の栓を抜かない、洗濯は雨が止んでから行うなどがある。出前講座では参加が数十人なので、もっと広く参加できる流域対策をPRしていきたい。	<大石> 雨が強い時に貯留水を流してしまわないように啓発が大切である。
6	大北	魚道改良について、アユやウナギの遡上効果について確認したい。	魚道改良については、内水面漁業組合や三橋先生のご指導により、現場発生材を積み上げ試行的に整備した。来年度にモニタリング実施を考えている。モニタリング方法については学識者と相談しながら実施していきたい。	
		台風11号の件で、船坂川の水位が上がり、堤防を越水している状態のとき、丸山ダム放水の話があり、放水は現状をみてからにしたほしいと要望した。船坂川は県の管理と聞いているが、西宮市水道局管理のようにも感じており、管理について確認したい。	丸山ダムは利水専用ダムで、入った水はそのまま出ていくことが基本だが、洪水への備えとして、通常水位を約2m下げて運用されている。本来は洪水対策の機能を有していない。武庫川の整備計画でも船坂川にはダムは位置づけされておらず、洪水調節しなくても、計画どおりに洪水を流せると考えている。	
		最近の豪雨では、心配なことが続いており、安心できるよう総合治水を願いたい。		<大石> 地元住民にもダムの操作方法を理解していただいた上で、ダム操作を行うよう心がけていただきたい。
7	足立(代理)	宝塚市では8月24日にも豪雨があり、台風11号では大堀川沿川の排水ポンプ3台と消防車のポンプ6台、24日にも排水ポンプ3台と消防車のポンプ3台を稼働させ床上・床下浸水を防ぐことができた。住民要望も強い大堀川の改修について早期の改修を願う。	宝塚市が先行整備している雨水幹線と大堀川との河床の高低差がない状態で、西田川橋から上流に向けて、河床掘削あるいは護岸整備等の検討を進めており、工事に着手できると向月町等の浸水の被害も大幅に軽減できると考えている。	
	宇田川(欠席)	武田尾において、台風11号で、どのくらいのスピードで水位が上昇し、氾濫危険水位を突破したのか。	武田尾の水位については、台風11号では、8月10日、10時10分に氾濫注意水位、10時40分には避難判断水位、11時20分に氾濫危険水位に到達し、13時ちょうどに最高水位6.9mとなった。ピーク時は約2時間で水位が3.5m急上昇した。	
	宇田川(欠席)	道場で基準水位を超えると、下流の武田尾とリバーサイドで回転灯が点灯するが、実際に武田尾で浸水が始まった時間との関係、いわゆるリードタイムはどうだったか。	8月10日、9時50分に道場で基準水位に達し、武田尾とリバーサイドでその時刻に回転灯が点灯した。武田尾の浸水時刻は11時半ごろと聞いており、リードタイムは1時間40分程度である。	
	宇田川(欠席)	回転灯が効果的に機能したか事後検証が必要ではないか。	事後検証は重要であり、今後行っていく。	
	宇田川(欠席)	8月10日、16日は避難勧告が宝塚市に出していたか。	宝塚市の武田尾では、10日、16日に避難勧告が出されている。	
	宇田川(欠席)	兵庫県と市で同じシステムで見ることができると、氾濫予測システムが稼働中だが、今回の洪水対応に効果があったか。	宝塚市によれば、避難勧告情報発信には、雨雲の動きや雨量、水位の上昇、県や气象台から提供されるデータ、3時間先の水位予測データ等を総合的に判断し避難勧告しているとのことである。	
	竹林(欠席)	緊急防災林整備において、間伐材を使用した土留工が流出し、災害を助長しないようなやり方になっているのか。	間伐材を使用した土留工は等高線方向に配置しており、斜面から60cm以上の杭打ちにより、流失しないよう固定している。	
	藤村	上流で護岸工事等を行うと、下流部の水位上昇がより早くなることを感じる。下流を先行し工事を行う必要があるのではないかと。	河川整備は下流から行うことが原則だが、武庫川のように延長の長い河川では、上流・中流でも危険個所の整備は行っていくこととしている。河川計画については、河川整備による早期流出も考慮し作成している。武田尾は未整備であることから、現在整備に取り組んでいるところである。	

<傍聴者発言> (4名)

- ・災害に対し、従来通りの対応を行えば同様の災害が発生する。被災状況を踏まえた対策の見直しが必要である。
- ・フォローアップ懇話会と推進協議会の関係がわかりにくい。また、今回の災害については、想定内であり現整備計画を進めるのか、あるいは見直すのかをフォローしてほしい。掃除等河川にふれあえる人を増やす努力をされれば理解が進むのではないかと考える。
- ・従来から雨の降り方が変わってきており、より強固な形での災害復旧ができないか。また間伐材を使った土留工は60cm打ち込んでいるから大丈夫というが、本当に安全なのか、丹波などの直近の災害を検証し評価につなげてほしい。
- ・武田尾のパラペット及び護岸の崩壊については支流僧川の土砂堆積により、河川水の行き場がなくなり、パラペットが川に崩落したと聞いており、これまでの洪水とは状況が異なっている。原因の究明を願う。